

平成 2 2 年度  
自己点検・自己評価報告書

関西医療学園専門学校

# 目 次

I. 関西医療学園専門学校自己点検・評価委員会規程	1
II. 評価項目別自己点検	
基準1 教育理念・目的・育成人材像等	2
基準2 学校運営	2
基準3 教育活動	2
基準4 教育成果	4
基準5 学生支援	5
基準6 教育環境	7
基準7 学生の募集と受け入れ	8
基準8 財務	8
基準9 法令等の遵守	9
基準10 自己点検・自己評価・第三者評価	9

# 関西医療学園専門学校自己点検・評価委員会規程

## (趣旨)

**第1条** この規程は、本校における教育水準の向上を図り、かつ本校学則第1条に規定する目的を達成するため、関西医療学園専門学校自己点検・評価委員会（以下委員会という。）を設置し、委員会に関する必要な事項を定めることを目的とする。

## (役割)

**第2条** 委員会は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 自己点検・評価の基本的方針及び自己点検・評価項目の策定に関する事項
- 二 自己点検・評価の実施、組織及び体制に関する事項
- 三 自己点検・評価結果の統括に関する事項
- 四 自己点検・評価報告書の作成に関する事項
- 五 自己点検・評価の公表に関する事項
- 六 自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

## (構成)

**第3条** 委員会の委員は、学校長が指名した教職員で組織する。

**2** 委員会に委員長を置き、学校長がこれを委嘱する。

## (運営)

**第4条** 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

**2** 委員会は、委員総数の過半数をもって成立する。

**3** 委員長は必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明または意見を聞くことができる。

## (結果の報告)

**第5条** 委員会は、自己点検・評価の結果を教師会に報告するものとする。

## (結果の公表)

**第6条** 自己点検・評価の結果を公表するときは、教師会の承認を得るものとする。

## (事務)

**第7条** 委員会の事務は、学務課において行う。

**附 則** この規程は、平成23年6月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像等

関西医療学園専門学校の歴史は、1957年(昭和32年)に大阪市阿倍野区に設置した「関西鍼灸マッサージ専門学校」から始まる。初代理事長武田武雄は「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」を建学の精神に掲げ、有為な鍼灸マッサージ師、柔道整復師を社会に送り出すことにより、斯界の発展に貢献してきた。さらに、理学療法士の養成教育についても1993年(平成5年)より行ってきた。そして、その精神は現在も脈々と受け継がれている。

本校がめざす理想の医療人とは、「心豊かな人間性と確かな実践力を身につけた医療人」である。学則第1条では「本校は、教育基本法及び学校教育法に則り、医療技術に関する学理及び技術を教授し、併せて普通教育を施し教養を高めるとともに人格を陶冶し、医療技術を通じて国民の保健衛生に寄与する有能な人材を育成することを目的とする」と明確に定めている。

さらに、患者さんの立場を最大限尊重できる豊かな感性と暖かい人間性、高い倫理観を持った医療人の育成に努め、多くの卒業生が各業界で活躍している。

## 基準2 学校運営

学校法人全体の運営方針は理事会及び評議員会で決定され、専門学校の日常的な事項の決定は教師会において行われる。この決定に基づき各学科の教務委員会のほか、各種委員会が細部にわたり検討し実行する。また、これらに付随する業務を処理するために事務組織が設けられている。このように本校の意思決定の過程は確立され円滑に遂行されている。

事業計画書は、毎年度、本校の円滑な運営と教育の充実に視点を置いた計画を策定し、さらに事業報告書においてはその達成及び進捗状況を報告している。本校の運営組織、各種委員会は各種規程により具体的に定められている。

教職員の採用は新学科の設置や定員の拡大により、適正数を確保してきた。また、就業及び厚生に関しては就業規則や各種規程により定められている。

情報処理システム、事務機器のOA化、AV機器の導入により、最新の情報システム化を進め事務機器や教具教材の作成等に使用されている。

## 基準3 教育活動

### (1) 東洋医療学科

教育活動については、教育目標に基づいて社会貢献のできる人材育成に努めており、その目標を達成するためのカリキュラムを作成している。1・2年生では学科・実技の授業をとおして臨床につながる基礎・応用を学ぶ。3年生では特に臨床実習の授業に力をいれており、実際の臨床の現場での経験を積むことを大切にしている。知識に加え患者さんへの対応やカルテの記載、そして治療技術をしっかりと身につけ、卒業後、仕事を通じて社会貢献できることを目標としてカリキュラムを設けている。

また、業界や社会の変化に対応できるよう、カリキュラムや授業内容、教材などの改善工夫を適宜行っている。2009年度(平成21年度)からは、WHO/WPRO(世界保健機関/

西太平洋地域事務局)主導で行われた経穴部位標準化を反映した教科書を採用し、グローバル化への対応にも努めている。

授業外でも教員が指導のもと学生が学術研究に力を入れており、東洋療法学校協会学術大会で評価を得て受賞もしている。これにより、学生の勉学に対する関心や意欲もさらに向上しており、教員も研究指導をとおして専門性を深めている。

専任教員は常より関西医療大学やその他の大学で研修を受け、専門性や教授力の向上に努め、授業及び教育に還元できるようにしている。毎年、東洋療法学校協会の教員研修会へも参加している。

また、各授業に関するアンケート調査を学生に実施しており、そのアンケート結果をもとに授業や教材及び教授法の改善工夫に努めている。

## (2) 東洋医療鍼灸学科(昼間・夜間)

教育活動については、教育目標に基づいて社会貢献のできる人材育成に努めており、その目標を達成するためのカリキュラムを作成している。1・2年生では学科・実技の授業をとおして臨床につながる基礎・応用を学ぶ。3年生では特に臨床実習の授業に力をいれており、実際の臨床の現場での経験を積むことを大切にしている。知識に加え患者さんへの対応やカルテの記載、そして治療技術をしっかりと身につけ、卒業後、仕事を通じて社会貢献できることを目標としてカリキュラムを設けている。

また、業界や社会の変化に対応できるよう、カリキュラムや授業内容、教材などの改善工夫を適宜行っている。2009年度(平成21年度)からは、WHO/WPRO(世界保健機関/西太平洋地域事務局)主導で行われた経穴部位標準化を反映した教科書を採用し、グローバル化への対応にも努めている。

授業外でも教員が指導のもと学生が学術研究に力を入れており、東洋療法学校協会学術大会で評価を得て受賞もしている。これにより、学生の勉学に対する関心や意欲もさらに向上しており、教員も研究指導をとおして専門性を深めている。

専任教員は常より関西医療大学やその他の大学で研修を受け、専門性や教授力の向上に努め、授業及び教育に還元できるようにしている。毎年、東洋療法学校協会の教員研修会へも参加している。

また、各授業に関するアンケート調査を学生に実施しており、そのアンケート結果をもとに授業や教材及び教授法の改善工夫に努めている。

## (3) 柔道整復学科(昼間・夜間)

柔道整復学科は、実技能力の高い資格者の育成を目指している。当然、カリキュラムも実技授業を豊富に組み入れ、日常施術に当たられている柔道整復師を非常勤教員として迎え、より実践的で臨床的な教育を心がけている。そして、学生の実技能力の習得向上を考慮し、本校独自の実技マニュアルを作成し、授業及び実技試験に役立てている。実技授業を担当する教員は、ほとんどが本校の卒業生であり、人格、知識、技術において信頼が置ける人材であり、授業アンケートにおいても学生から高い評価を得ている。授業全体は、科目大系フローチャートに沿って、学生がより効率的に各学年、各科目においてステップアップできるような科目構成をしている。しかし、学生は知識、技術を向上させ、修得し、探究する自習時間が少なく、試験のみの合格が精一杯という感もあり、モチベーションの低下も見受けられる。

学生の入学の目的は、国家試験合格であり、そのフォロー体制は、補講、模擬試験など万全を期している。学生も国家試験科目については単位認定制度があるにも関わらず、単位認定を受けず勉学に励んでいることは称賛できる事実であると感じている。

実際、社会に出て、医療人として地域住民に信頼され、必要とされる人材となるためには、知識や技術だけでなく、人間性やコミュニケーション能力が必要である。この教育は卓上の教育だけで行えるものではなく救護活動などボランティア活動を通じ社会と交わり、育成していきたいと考えている。医学は日進月歩、発展し、それに対応するためには、卒業後も勉強しなければならない。この生涯教育に対し校友会とタイアップして活動を積極的に行っている。

#### (4) 理学療法学科

教育成果を常に把握し、カリキュラム・授業内容・教育効果を点検し、適切に見直すことは学校の本質である。

本校では、平素より教育効果に着目して授業実施状況を点検し、その内容のさらなる改善に努めている。

教育目標・育成人材像は、業界ニーズと学生にとって到達可能な目標かどうかを勘案して、効率的かつ具体的に実現できるように定めている。学年毎に必要な知識レベルを設定し、カリキュラム編成に反映させ、限られた修業年限内でも十分習得できるよう効率的な科目配分を実現している。

また、授業についての学生アンケートを実施し、学生の満足度を測るとともに改善点を把握して、この結果を教員へフィードバックし、さらに必要であればカリキュラムの見直しを行うなど、適宜、教育内容の改善に努めている。

### 基準 4 教育成果

#### (1) 東洋医療学科

東洋医療学科が目標とする「はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師」の国家試験合格率は高い数値を達成している。また、希望者に対する就職率も 100%を達成している。

また、卒業生は、建学の精神(社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神)を大切にし、それぞれの職場で活躍し、評価を得ている。

以上のように教育活動による成果を得ている。

#### (2) 東洋医療鍼灸学科(昼間・夜間)

東洋医療鍼灸学科(昼間・夜間)が目標とする「はり師、きゅう師」の国家試験合格率も高い数値を達成している。また、希望者に対する就職率も 100%を達成している。

また、卒業生は、建学の精神(社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神)を大切にし、それぞれの職場で活躍し、評価を得ている。

以上のように教育活動による成果を得ている。

#### (3) 柔道整復学科(昼間・夜間)

養成施設の急増を背景に志願者が激減し入学倍率の低下が起こり、学力の低い入学者や

目的意識の低い入学者が増えている。それに加え、不景気により学費が家計を圧迫し、退学する者が増えている。これらの打開策として、奨学金や試験救済システムの実施など、様々な取り組みを行っている。

就職については、卒業生の最終目標は、独立開業であるが、就職率は100%であり、求人は求職数を上回る状態である。

当然、就職の前に資格取得が必修の条件となるが、学校として、国試に対する補講や模擬試験など、フォローアップ体制が充実している関係で、高い合格率を維持している。しかし、実際、資格を取得し社会で信頼される医療人となるためには、机上の知識や技術では、地域住民に信頼を得、必要とされる柔道整復師となることはできず、生涯教育として校友会とタイアップし、研修を行い、より一層の資質の向上を図り、確実なものにしなければならない。

#### (4) 理学療法学科

教育効果として、学生の目標達成・就職支援・卒後教育が重要であり、本校では、資格取得・就職指導・卒業後の校友会による勉強会などによる支援体制を確立している。

国家資格については、毎年良好な合格率を確保している。

就職については、適切な指導の結果、就職希望の学生は全員就職できている。また、卒業後は資格取得後も研鑽に励み、各分野で活躍している。研鑽の場として、校友会が主催する勉強会、学術研修会、各団体の学会への参加などがある。

### 基準5 学生支援

#### (1) 東洋医療学科

学生生活全般を支援するよう努めており、学生生活の相談や就職支援、経済的支援の体制は整備されている。

学生生活(精神面、学業面)については、各学科で数名(1名から2名)の専任教員が学生相談員となり、学生からの相談に対応する体制が整っている。その他に担任制をとり、相談の他に成績・出席指導等の個人面談も行っている。また、必要な場合は保護者と連絡をとり、連携も図っている。

健康面では、毎年定期健康診断を実施し、学生の負傷、疾病発生時には学生総合保険により学生支払負担を軽減するなど、総体的に学生の健康管理を行っている。

進学・就職については、入学時に社会人経験者、大学出身者の割合も多く、また職種上、専門領域であるはり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師の国家資格の特性から、就職・進学に関する専門部署は設置せず、学務課業務内で求人情報の受入や学生(卒業生)への求人提供を行っている。

但し、最終学年に進学・就職のアンケート調査を実施し、相談者には適宜対応している。

経済的側面については、学園の経営努力のもと、同種の他校と比べて安い学費設定を行っている。その他に学費の延納分納制度、奨学金制度、各種奨学金の案内、教育ローン、提携銀行ローン等も紹介している。

学生の住居及び下宿先は学務課を通じて一定の紹介を常時行っている。

学生の課外活動は公認クラブに対しては助成金を支出し支援を行っている。

## (2) 東洋医療鍼灸学科(昼間・夜間)

学生生活全般を支援するよう努めており、学生生活の相談や就職支援、経済的支援の体制は整備されている。

学生生活(精神面、学業面)については、各学科で数名(1名から2名)の専任教員が学生相談員となり、学生からの相談に対応する体制が整っている。その他に担任制をとり、相談の他に成績・出席指導等の個人面談も行っている。また、必要な場合は保護者と連絡をとり、連携も図っている。

健康面では、毎年定期健康診断を実施し、学生の負傷、疾病発生時には学生総合保険により学生支払負担を軽減するなど、総合的に学生の健康管理を行っている。

進学・就職については、入学時に社会人経験者、大学出身者の割合も多く、また職種上、専門領域であるはり師・きゅう師の国家資格の特性から、就職・進学に関する専門部署は設置せず、学務課業務内で求人情報の受入や学生(卒業生)への求人提供を行っている。但し、最終学年に進学・就職のアンケート調査を実施し、相談者には適宜対応している。

経済的側面については、学園の経営努力のもと、同種の他校と比べて安い学費設定を行っている。その他に学費の延納分納制度、奨学金制度、各種奨学金の案内、教育ローン、提携銀行ローン等も紹介している。

学生の住居及び下宿先は学務課を通じて一定の紹介を常時行っている。

学生の課外活動は公認クラブに対しては助成金を支出し支援を行っている。

## (3) 柔道整復学科(昼間・夜間)

学生生活全般を支援するよう努めており、学生生活の相談や就職支援、経済的支援の体制は整備されている。

学生生活(精神面、学業面)については、各学科で数名(1名から2名)の専任教員が学生相談員となり、学生からの相談に対応する体制が整っている。その他に担任制をとり、相談の他に成績・出席指導等の個人面談も行っている。また、必要な場合は保護者と連絡をとり、連携も図っている。

健康面では、毎年定期健康診断を実施し、学生の負傷、疾病発生時には学生総合保険により学生支払負担を軽減するなど、総合的に学生の健康管理を行っている。

進学・就職については、入学時に社会人経験者、大学出身者の割合も多く、また職種上、専門領域である柔道整復師の国家資格の特性から、就職・進学に関する専門部署は設置せず、学務課業務内で求人情報の受入や学生(卒業生)への求人提供を行っている。但し、最終学年に進学・就職のアンケート調査を実施し、相談者には適宜対応している。

経済的側面については、学園の経営努力のもと、同種の他校と比べて安い学費設定を行っている。その他に学費の延納分納制度、奨学金制度、各種奨学金の案内、教育ローン、提携銀行ローン等も紹介している。

学生の住居及び下宿先は学務課を通じて一定の紹介を常時行っている。

学生の課外活動は公認クラブに対しては助成金を支出し支援を行っている。

## (4) 理学療法学科

学生生活全般をフォローするよう努めているところであり、学生生活の相談や就職支援、経済的支援は充実していると考えている。

就職に関しては、全体ガイダンスを行ったうえ、個別面談を行い、適切な指導を行っている。

学生生活における相談には、専任の相談員と担任で連携を取りながら、対応している。  
経済的支援については、本学園貸与奨学金と日本学生支援機構の奨学金制度を整備するほか、延納分納制度を整備しており、学生の就学支援を図っている。

この他、学生定期健康診断の実施やクラブ活動支援体制など学生生活を多面的にサポートしている。

また、学生指導の一環として、適宜、保護者と連絡をとり、学校と家庭の連携に努めている。

## 基準6 教育環境

### (1) 東洋医療学科

各教室、実習室、図書室等の施設については、各養成施設としての法令に基づいて整備されている。また法令には規定されていないが自習室、学生ホール等を設けている。

実習については東洋医療学科では本校附属施術室で臨床実習を実施している。

また任意参加ではあるが、上海中医薬大学短期研修、アメリカスポーツ医学短期研修など学校内では体験できない中医学、スポーツ医学の最新の情報を肌で感じ、医療人として視野を広げることに成功している。

耐震設備、消防設備などの防災施設は整備されており、メンテナンス業者と契約し、定期的に検査、修繕を行っている。ただ組織としての防災に対する体制は整備されているとはいえ、防災マニュアルも作成されていない。今後は防災訓練も含めて検討しなければならない。

### (2) 東洋医療鍼灸学科(昼間・夜間)

各教室、実習室、図書室等の施設については、各養成施設としての法令に基づいて整備されている。また法令には規定されていないが自習室、学生ホール等を設けている。

実習については東洋医療鍼灸学科では本校附属施術室で臨床実習を実施している。

また任意参加ではあるが、上海中医薬大学短期研修、アメリカスポーツ医学短期研修など学校内では体験できない中医学、スポーツ医学の最新の情報を肌で感じ、医療人として視野を広げることに成功している。

耐震設備、消防設備などの防災施設は整備されており、メンテナンス業者と契約し、定期的に検査、修繕を行っている。ただ組織としての防災に対する体制は整備されているとはいえ、防災マニュアルも作成されていない。今後は防災訓練も含めて検討しなければならない。

### (3) 柔道整復学科(昼間・夜間)

各教室、実習室、図書室等の施設については、各養成施設としての法令に基づいて整備されている。また法令には規定されていないが自習室、学生ホール等を設けている。

実習については柔道整復学科では本校附属施術室で臨床実習を実施している。

また任意参加ではあるが、上海中医薬大学短期研修、アメリカスポーツ医学短期研修など学校内では体験できない中医学、スポーツ医学の最新の情報を肌で感じ、医療人として視野を広げることに成功している。

耐震設備、消防設備などの防災施設は整備されており、メンテナンス業者と契約し、定

期的に検査、修繕を行っている。ただ組織としての防災に対する体制は整備されているとはいえず、防災マニュアルも作成されていない。今後は防災訓練も含めて検討しなければならない。

#### (4) 理学療法学科

施設・設備の改修に努め、学習環境の整備を積極的に図っている。

学外実習については、実習施設との連携を図り、教育効果の把握に常に努めており、十分な教育体制を整備できている。

防災対策については、学内及び学外での事故を防止するように努めているところであるが、これに加え、万が一の災害にも対応できるように保険に加入している。さらに、防災訓練・退避訓練など、緊急時に備えた準備をしておくことが必要と考える。

### 基準7 学生の募集と受け入れ

学生募集活動については、入学試験・広報委員会等の活動方針を点検し、適正に実施されている。具体的には、学校案内書及びホームページの作成、ネット媒体や進学情報誌への参画、学校説明会及び入学相談会の実施などにより、適正に募集活動を行い、定員確保に努めている。また教育成果を学生募集に活用しているが、卒業生の活躍例を今後、より一層学生募集に反映できるようにデータの収集を行う。

入学選考については、入学選考委員会を設け、多様な入学選考を実施することで、学生数の確保を図っている。

学納金については、経済環境に配慮し、学納金の減額改定を実施している。また、学納金のほか、費用の必要な白衣、柔道着、実習器具等について、本校では無償で支給している。これらは学生募集要項に明記している。

### 基準8 財務

2010年度(平成22年度)収支決算は、収入面では手数料、寄附金、資産運用収入、資産売却差額及び雑収入が増額となったが、学生生徒等納付金、補助金及び事業収入は減額となり、帰属収入合計2,965,092千円、消費収入の部合計は2,759,054千円であった。支出面では、消費支出の部合計が2,916,074千円であった。

収支差額面では、消費支出超過額は157,019千円、翌年度繰越消費収入超過額は、515,275千円であった。

学園全体においての借入金負債では、返済計画に沿って各年度の返済額や総資産額に対する割合についての基準を遵守したものであり、順調に返済をしている。なお、現状では自己資金からみる負債比率は16.3%である。財政基盤は積極的な対応策等により安定している。

財政基盤安定実施ために、入学者を確保する計画を強化し、全教職員が協力して、業務改善を進めている。また、経費支出においては、教育の水準を低下させることなく、経費節減に努め、財務の健全性を維持する為に、計画的に予算管理運営を行っている。

## 基準9 法令等の遵守

本校は学校教育法、専修学校設置基準、養成施設指定(認定)規則並びに養成施設指導要領などの関連法令及び学校法人寄附行為、学則等諸規程に基づいて運営している。これらは教職員全体に周知されている。

個人情報保護対策については個人情報保護法を遵守し、できる限り教職員及び学生データの不法管理がないように教職員に対して注意を促している。

## 基準10 自己点検・自己評価・第三者評価

本校は2005年度(平成17年度)より自己点検・評価委員会を設置し、定期的に会議を行っている。

2005年度(平成17年度)には(社)東洋療法学校協会が作成した「自己点検・評価相互評価項目」を準用し、2006年度(平成18年度)に本校独自の形式で自己点検・評価報告書を作成した。

2007年(平成19年)12月の学校教育法の改正(自己点検・評価関連法令)に伴い、2009年度(平成21年度)より、自己点検・評価の実施及び情報公開の取組みの他に、新たに第三者機関による自己点検・評価を視野に入れ、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構の「自己点検ブック(私立専門学校等の自己点検・自己評価)」に基づき、「自己点検・評価報告書」を作成した。